

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4674000148
法人名	社会福祉法人 脩寿会
事業所名	アルテンハイム鶴宮園グループホームうらら
訪問調査日	平成 21 年 2 月 23 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4674000148
法人名	社会福祉法人 脩寿会
事業所名	アルテンハイム鶴宮園グループホーム うらら
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾 4088番地 (電話) 0996-59-8088

評価機関名	特定非営利活動法人
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年2月23日
評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 15 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16人 常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算 15, 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺・陸屋根 2階建て1階部分 (1号館)
	木造平屋建て 1階 (2号館)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	15,000(管理費) 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	10名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 87, 2 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林田内科 ・ 薩摩郡医師会病院 ・ たきがわ歯科
---------	--------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紫尾連山に囲まれ、近くには紫尾温泉、宮之城温泉がある自然豊かな山あいの地にグループホームうららがある。隣接して同法人が運営する施設があり、ボランティアの来園時や敬老会等の行事、消防訓練などを共に行い協力している。利用者は地域の方も多く家族の面会も頻繁にあり、事業所にも遠方からの家族が宿泊できるようにと宿泊設備が整っており、利用者と家族の関係を大切に考えている事業所である。職員は、利用者が笑顔になれるのはどんな時かを観察しその人らしい生活を支える為に、気づきシートを全員で作成、共有しケアにあたっている。職員も明るく、全力で支援しているのが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題は2つあり、同業者との交流を通じた向上については、管理者が町内の他の事業所にネットワークづくりを働きかけているところであり、職員同士の交流を行うまでには至っておらず継続中である。栄養摂取や水分補給の支援に関しては、法人内の管理栄養士に不定期だが献立を見てもらい、バランスについてのアドバイスを受け記録に残すと共に食事作りに反映させている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に評価表を渡し評価を行ったものを基に、ユニットごとに管理者と職員でまとめている。自己評価を通して、利用者のできる力を活かせる支援をしているか、職員の声かけがきつくなっていないか、などのケアに対する振り返りの機会となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成20年度の運営推進会議は4月から今までに不定期だが5回行われている。地域の代表や家族にも日頃の様子を知ってもらいたいという意向で、行事や避難訓練時を会議日としている。特に災害時などには、地域の協力がなければ利用者の安全を確保できず、避難訓練に地域代表に参加してもらうことで地域の方に関心を持ってもらえる機会としている。今後は、地域代表の参加者を増やしていかれることを期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は作られてはいないが、日頃の面会時や運営推進会議、プラン作成時の家族面談、無記名アンケートなどで、家族の意見、苦情、要望を表す機会を作っている。身体的機能が低下してきている利用者について、家族は転倒などによる骨折を心配しているが、全職員が転倒防止に向けて意識を高めており、さまざまなケアの工夫を行うことで対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員も地域から通ってきているので、散歩や公園、足湯などに出かけても気軽に声をかけあっている。ボランティアの受け入れや学生の職場体験の受け入れ、地域行事への協力などを行っている。また、地域の高齢者対象のいきいきサロンの場所として事業所を提供し利用者も一緒に参加し、歌や踊り、食事会などの交流を行いながら、地域の方々への楽しみに繋げている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るい笑顔を大切にします」「自分らしい生活を支えます」という、地域の一員としての誇りを持ち、豊かな人間関係を保ち支え合う暮らしを支援できるようにと作られた法人全体の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングに理念を掲げ、スタッフ会議や毎日の申し送り時に確認している。利用者が出来ていたことが出来なくなった時など暗い顔をした利用者に寄り添い声をかけたり、利用者のやりがいいにしていることを見守るなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する同法人の施設にボランティアの慰問が来られたときや敬老会など一緒に参加している。地域の夏祭りに参加したり、地域の子供会との交流会など行っている。散歩や足湯などに出かけた時など声をかけあい交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価については、職員に伝えられ改善できるものは改善しているが、継続中の項目もある。自己評価については、職員一人ひとりに評価票を渡し記入したものを基にユニットごとでまとめて、ケアの振り返りとして役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は4月から今までに不定期だが5回開催されている。事業所の活動状況や行事予定の報告、外部評価や自己評価についての説明などを行ったあとに、意見交換の場としている。日頃の利用者の様子を見て頂きたいという意向から、行事日に合わせて会議を開催している。		

鹿児島県 アルテンハイム鶴宮園 グループホームうらら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらうだけでなく、役場に出かけて行き気軽に相談に応じてもらったり、電話で対応してもらうなどしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人施設から年4回発行される便りと重ならないように、不定期だが年7回程度「うららだより」を発行し、日頃の様子を写真入りで伝えている。健康状態については、面会時や電話等で伝え、金銭出納帳は、個別に作成され領収書を添付しており、面会時に家族に確認して押印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、家族に参加してもらう行事の中で家族の交流の場をもっている。面会時や家族面談、無記名アンケートで苦情、意見、要望を聞く機会を作っている。出された意見は、職員と話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間や法人内の異動も極力行わないようにしているが、避けられない時には、馴染みのある職員を配置するように心がけている。新人職員には、利用者とのコミュニケーションを取ることを大切にもらい研修期間は1ヶ月としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を月1回行っており、職員は全員参加している。外部研修は、平等に職員の段階に応じた研修に参加できるように、研修者リストを作成している。研修後は報告書を提出し、全体の間でも発表する機会があり、参加できなかった職員には資料を配布している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県グループホーム連絡協議会や出水川薩地区支部会に参加し交流に努めている。町内の他の事業所とのネットワーク作りを、行政の担当者を通じて進めているところであるが、職員同士の交流までには至っていない。	○	昨年度の改善課題を継続中であり、今後、他の事業所との職員同士の交流や相互訪問等を行うことで、事業所の長所を伸ばし、問題点があれば解決のヒントを得られるように、事業所や地域全体のサービスの質の向上につなげられる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅からの入居が多く、本人と家族に必ず見学に来てもらい、一緒にお茶を飲んだり、レクレーションをしたりしながら、雰囲気を感じてもらっている。サービス開始前には、自宅訪問し事前調査を行っている。入居後は家族との外出や外泊等にも応じて、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の生活から利用者の言葉、表情、行動を観察し思いを把握し具体的行動に至るように手助けし、お互い分かり合い支える関係を築いている。朝の掃除や台所の後片付け、四季ごとの風習や郷土料理作りを教えてもらうなどのしながら、感謝の言葉を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個別に気づきシートを作成し、職員が日頃の会話や行動、表情などを観察して気づいたことを書き入れていき、職員全員で共有し思いの把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員はケア会議で気づきノートをもとに意見を出し合い、サービス担当者会議には、本人、家族、担当職員、担当ケアマネが参加して本人や家族の意向を確認している。介護計画は、それぞれが話し合った意見と主治医の意見を反映させたものになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース会議を毎月行い、短期目標についてモニタリングをしている。3ヶ月から6ヶ月に1回担当職員が家族に連絡をし、必要な関係者と面談を行い、本人や家族からの要望があった場合には、見直しをしている。又、緊急で状態に変化があった場合には、その都度、家族面談を行い、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の介助や薬取りなど職員が支援している。美容院への外出や外泊など家族と情報を共有しながら柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って入居前のかかりつけ医を継続している。年2回の健康診断と夜間、緊急時には協力病院が対応している。病院受診に職員が付き添った場合に事業所は、家族と関係医療機関との連絡を密にして適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、重度化した場合や終末期の対応については、出来ることと出来ないことを契約時に家族に伝えている。緊急時の対応については、協力病院との連携が取れておりマニュアルも作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応について管理者は指導しているが、無意識に馴れ合いになっている職員の気になる声かけがあったり、周囲に配慮がされていないことを目にすることもある。個人情報の取り扱いは周知し徹底している。	○	馴れ合いから生ずる気付かない声かけや対応になっていないか、日常的な確認と改善に向けた事業所全体としての取り組みを期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望により馴染みの美容室に行ったり、買い物やドライブを兼ねて墓の近くまで行き手を合わせてきたり、散歩、菜園の草取り、寝酒として焼酎や梅酒、養命酒を出すなど一人ひとりのペースと想いを大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、材料を見て職員が利用者聞きながら立てている。利用者は力量に応じて、野菜を切ったり、下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどを行っている。同じテーブルを囲んで職員はさりげなく食が進むように介助し、会話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回午後の入浴を支援している。一人ひとり何を着るか職員と選んだり、化粧を落としたり入る順番を決めたりと希望に添うように支援している。入浴を拒否する人には、声かけのタイミングと方法を変えたりして対処している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの気づきシートから出来ることを役割とし、お花の水替え、食器洗い、菜園の草取りなどをしてもらい、楽しみ事は、ゲートボールやレクリエーションでの歌やペットボトルボウリングなどで、時々ドライブや紫尾温泉の足湯、弁当持参で公園に行くことが気晴らしの支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、外にイスを並べて日光浴をしたり散歩をしたりしている。外食にうどんやラーメンを食べに行ったり、ドライブや買い物に行くなど戸外に出られるように支援している。希望があれば自宅や墓の近くまで行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間帯に施錠するが日中の出入りは自由である。玄関の扉の磁石が離れたらチャイムが鳴ることで、死角をカバーし利用者の安全を確保している。外出傾向にある利用者について職員は把握しており、一緒について行き本人の気が済むまで付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回施設合同での防火訓練と、年1回事業所独自の避難訓練が地域代表の参加を得て行われている。毎日ユニットごとの夜勤者同士が、避難手順の確認をして意識を高めている。避難誘導のマニュアルも作成しており、地震や風水害時の避難場所は法人の施設となっており備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量については記録し把握されている。水分は時間を決めて摂取してもらい1,000CCを目標としている。栄養バランスについては、施設内の管理栄養士からアドバイスを受けて献立に反映させている。食事形態や量についても、一人ひとりに応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口の中央に手すりがつけられ、車椅子でも通れるようになっている。中庭はウッドデッキが作られ、金柑が実をつけている。廊下は回廊式になっていて中庭からやさしい光が差し込む。一段高い畳みの部屋には雛人形が飾られリビングの所々にも花が飾られ季節感が感じられるようになっている。ソファやテーブルなど思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットは備え付けだが利用者の希望で畳みに布団を敷いている部屋もある。それぞれが、パイプハンガー、タンス、家族の写真、椅子、観葉植物など好みの物や落ち着ける物を持ち込んで本人が過ごしやすい部屋になっている。		